

授業を創る 授業を通して子供が学んだことを教師がつかむ方法を

A小学校H先生の授業の相談にのり一緒に授業を創ることになりました。「友情・信頼」を指導するために絵本『ともだちや』（偕成社内田麟太郎）を使います。絵本の内容は次の通りです。

村一番の寂しがりやのキツネが、一時間百円で友だち屋を始めました。最初はクマに声を掛けられ、イチゴを食べさせられて嫌な思いをします。その後、トランプをして代金を請求したところ「それが本当の友達か」とオオカミに叱られ、本当の友達とは何かに気付きます。そして、「何時間でもただです」とスキップをしながら帰っていきます。

本時の目標は、次の通りです。

キツネの心情を考えるを通して、友達とは利害関係で成り立つものではないということに気づき、「本当の友達」とは何なのか、自分なりの考えをもち、よりよい友達関係を築こうとする心情を育てる。

H先生が、最初に考えた授業案は、次の通りでした。

【第1次案】

- 1 友達とはどんな人なのかを考える。
- 2 資料提示をしながら話し合う。
 - (1)クマとイチゴを食べた時のキツネの気持ち
 - (2)オオカミとトランプをした時のキツネの気持ち
 - (3)キツネは、なぜスキップしながら帰ったのだろう
 - (4)学習課題提示 「友達屋」と「友達」はどう違うのか
 - (5)友達屋と友達の違いを話し合う。

3 「友達屋」と「友達」のどちらになりたいかをふりかえりカードに書く。

第1次案について、私は次の疑問を持ちました。

- ア 友情に関する価値観を見直し、新しい価値を獲得するためにH先生が、子供たちに本当に話し合わせたいことは何か。
- イ 学習課題の提示の位置はどこでいいのか。
- ウ 高い価値に基づいた友達付き合いの仕方を子供がつかみ、多様な付き合い方の中でその良し悪しを判断できる箇所はどこか。
- エ 友達屋がよいと書く子がいてもいいのか。友達屋が友達になるためにはどうすればいいのかを考える必要は無いのか。
- オ 2年生で本当に利害関係を考えて遊んでいる子がいるのか。学級の実態はどうか。

この疑問をもとに、より子供の実態や発達段階に合った方法をH先生と相談し、次の案ができました。

【第2次案】

- 1 友達とはどんな人なのかを考える。
- 2 資料提示
- 3 学習課題提示 キツネは、なぜスキップしながら帰ったのだろう
- 4 学習テーマに関する話し合いをする。
 - ア 苦しまなくてもいいから
 - イ 宝物をもらったから
 - ウ 明日も明後日も来ていいと言われたから
 - エ お金では買えない大切な友達ができたから
- 5 これから、どんな友達付き合いをしたいかをふりかえりカードに書く。
- 6 代表児童の発表を聞く。

この案に、次の疑問と提案をメールで送り

ました。Hの返信も載せました。

●石井→H先生

展開の2と3のつながりをどうしますか。「どうしてスキップをして帰ったか」の話し合いの次に、「じゃあ、スキップをして帰って来れるような友達ってどんな人？」とか、「自分にとってうれしい友達ってどんな人」とか、ちょっと難しいかもしれませんが、「本当の友達ってどんな人だと思う？」などを入れたいところです。

4は、「どんな友達付き合いをしていきたいと思うか」ではなく、「どんな友達になりたいか」でいいでしょう。

●H先生→石井

2から3にいくときに、スムーズにつながることができるか不安だったので、すっきりしました。先生にいただいたつながりは、補助発問として、黒板には書かずに聞こうかと今のところ考えています。添付した指導案で、明日学年の先生に子ども役をしていただいて模擬授業、8日と来週に他のクラスで授業をしてみたいと思います。直前で変更があるかもしれません。

そして、先行実践を行った上で修正を加えて作られたのが、次の指導案です。

【第3次案】

- 1 友達とはどんな人なのかを考える。
- 2 資料提示
- 3 学習課題提示 キツネは、なぜスキップしながら帰ったのだろう
- 4 テーマに基づいて話し合う。
 - ア 苦しまなくてもいいから
 - イ 宝物をもらったから
 - ウ 明日も明後日も来ていいと言われたから
 - エ お金では買えない大切な友達ができたから

※ 5へつなげるため、スキップがしたくなるほどうれしくなる友達とはどんな友達なのかを考えさせる。
- 5 これから、どんな友達になりたいかふりかえりカードに書く。
- 6 代表児童の発表を聞く。

この案について、私は、次のメールを送りました。

ずいぶんすっきりとしました。いい感じですよ。あとは、授業をやりながら微調整をし、自分で納得した線で攻めてみてください。楽しみにしています。

そして、研究授業当日の【第4次案】では、4に「イ 楽しかったから」が加えられて5つの選択肢を想定して実施されました。

H先生は、半年以上前から資料選びを始め、直前までよりよい授業をしたいと考え抜かれました。授業道を究めようとするお手本です。

さて、授業では子供からたくさんの意見が出され、互いの考えを認め合いながら進められました。心温まる授業となりました。6でふりかえりカードに書かれた子供の感想です。

優しくていっぱい遊んでくれる人が本当の友達。友達を大事にしたい。友達はお金をとる人ではないと分かりました。

ただ、研究協議会でカードに書かれた内容が授業前と質的に変化していないことが問題になりました。確かに、6の様子を見た時に、座席表にあった「友達とはどんな人？」の事前調査の記述とあまり差がありませんでした。原因は低学年の表現力の未熟さにありました。「優しくする」「大事にする」とはどうすることか、書く前にもっと掘り起こしておく必要がありました。「友情」に関する別の事例を与え、その事例に対する対応の仕方を書かせる方法もあったと思います。そこを予測して授業創りの提案ができなかった私自身の甘さが原因です。

道徳の評価委員会の審議が遅れているようですが、評価をするためには、個々の子供が授業を通して学べたことを担任が把握できなければなりません。表現力に左右されずに子供の考えをつかむための問いや方法をさらに工夫する必要がありました。大反省です。